

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

自分で考えたことを適切な方法で他者に伝えることができる子どもの育成
 令和4年度の全国調査の標準化得点(文科省) 国語100以上 数学100以上

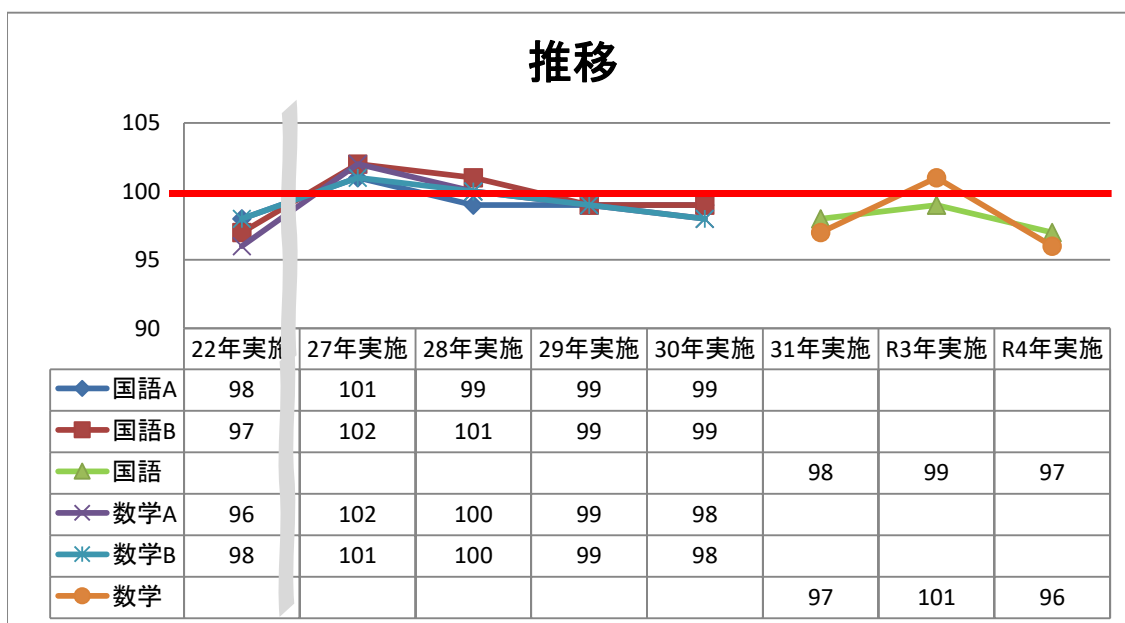
3.指標に向けての取組

◎学力基盤づくりとして

- ◆生徒会専門委員会の学習専門委員会を中心とした学習コンクールと学級表彰の実施
- ◆「鍛ほめ」の一環として、話し合いの中で目標を決め、学級または個人で取り組み、振り返る活動の実施
- ◆週1回の学年別による放課後補充学習の計画的な実施
- ◆Kaho Step up Time (KST)における各学力層に応じた学力補充の時間を設定し、習熟度別や少人数によるきめ細かな指導の実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	97	96
嘉麻市	97	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

◎国語において

領域で見た場合の「話すこと・聞くこと」「書くこと」に、県の平均正答率との開きがある。さらに、観点で見た場合は「思考・判断・表現」に県の平均正答率との開きが見られる。

◎数学において

県の平均正答率を超えたものとして、「数と式」がある。一方で、「データの活用」においては、県の平均正答率を下回っているため、今後の指導課題となる。

◎非認知能力において

非認知能力の指標とする「学ぶ意欲」「自尊感情」「向上心・チャレンジ精神」「勤勉性」「困難に立ち向かう力」の5項目について調査結果を本校と県平均を比較した場合、「学ぶ意欲」としている夢や目標を持っているかの問いのみ「はい」、「どちらかといえばはい」を合わせても県平均に至っていない。

6.各学校における今後の取組

◎学力基盤づくりとして

- ◆放課後補充学習を継続して実施(毎週1回各学年ごとに)
- ◆KSTによる生徒の学力実態に応じた全職員での学力向上の取組
- ◆未来への一歩(数学)を活用した学習サイクルの確立
- ◆非認知能力の向上につながる学校行事等での体験的な学習の実施と評価

◎授業づくりとして

- ◆ICTの活用や週末課題の取組による家庭学習時間の確保
- ◆課題解決に向けた見通しを持たせ、意欲を高める授業展開の工夫
- ◆全領域において、自分の考えを説明したり、話し合いによって考えを広めたりする対話とかく活動の設定
- ◆主体的な学習態度の評価とそれを見取る場面設定
- ◆学習活動を通じた振り返りと、自己の気づきが自己変容につながる指導の改善

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、徹底できるように継続的に指導する。

- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。